

「普通か」「普通でないか」

私たちは、年の初めに今年のテーマを定めます。目標が定めればブレることがありません。足立美術館の庭の凄い所は石を中心とした手前の庭だけではなく後ろの山を含めた全体なのです。私たちの人生もこの一つの真ん中を見てしまうと大きなズレを生じます。石だけを見れば普通の石です。ところが全体によって特別な存在になります。私たちの人生もいつも目の前に起こったことに目が向きやすく、今を見てしまいます。しかし、小さな目の前のことに目を向けてしまうと背後にある特別なことがわかりません。障がい者の父と娘との動画を見ました。彼女はお父さんの障がい「普通と違う」という見方によって彼女の人生を失ってしまいます。社会もその「普通だ」「普通ではない」という浅はかな秤によって物事を大きくずらしていき、一人の人の人生を壊して行ってしまいます。作品には全てのもので一つでオリジナルなので「普通か」「普通でないか」という判断はありません。今年一年間、みなさんの周りに「普通こうだろう。」といったことが起こるかもしれません。しかし、私たちはその「普通の秤」で物事を判断すると、その人のことも、あなた自身のことも壊してしまう可能性があるのです。

大観

今年のリバーサイドチャーチのテーマは「大観」です。横山大観という人の絵は、「大きなものを見る」「大局を誤らない」という人生のテーマをおいて描いた絵だと思えます。本日のメッセージのタイトルは「なぜ生かされる」です。このコロナ禍の中で私たちは「なぜ生きているのか」。みなさんはどんな気持ちで物事を見ようとしているのでしょうか。「普通はね」と判断するか「なぜ自分はここに生きているのか」と考えるのか。これによってあなたの生き方は大きく変わります。人のせいにすることは簡単です。しかし、今日示された聖書の箇所はあなたがどのように判断するかについて語っています。<ヨハネ 7:15>みなさんは正規に学ばれてきました。イエス様は大工として歩み正規として学んだわけではありません。しかし、イエス様には知恵がありました。みなさんの知識によって学んだものはたくさんあるかもしれませんが、この知識はいかに皆さんの人生に変換されるかで価値を見出します。日本は毎日のように学校で学んでいるのに世界水準でみると非常に愚かな国民と言われています。何故かという、あの山を考えずに目の前の石を見るからです。全体を見れなくなった人間は愚かです。何故かという後ろにあるものが分からないからです。そして、目の前にある判断を間違えます。なぜこれを行っているかが分らなくなるからです。仕事もなぜ行っているのでしょうか。利益を求めようになつてズレるようになってしまいました。是非、この一年、この大観という見方を見失わないで歩んで欲しいのです。

<ヨハネ 7:16>「それはあなたの考え方でしょう」とよくいわれます。これを言われた時には気をつけてください。私たちの考えは今しか分からないので非常に愚かです。過去も遡って将来も見据えて今を考えていると言ってそれはあなたの生きた短い時による判断です。そして、人から聞いたあなたが体験していない情報によるものです。将来について考えても同じです。将来はわかりません。しかし、イエス様は「わたしの教えはわたしのものではありません」と言われました。私たちが教会で子ども達に教えていることは、世の中の価値観ではありません。これは何千年にも渡って伝承されてきたある書物による価値観です。父のあり方、母の存在、両親と子どもの関係、子どもの生き方、父親・母親が子どもに何を与えるべきかが書かれています。今の日本は、子どもに物を与えれば良い、そして、子どもに体験させるよりは危険を遠ざけるといふこととは真逆の教育が基本です。目の前で子どもが石につまずいて怪我をするという事は一時を見れば悪い事です。しかし、それならば、小さな石にぶつかって痛い思いをした方が、その子が大きな問題にぶつかって死ぬことを避けさせようとするのが教育です。私たちはそのように大観を見なければいけません。私たちは目の前で起こったことについて計り知ることができず、そして、信じられなくなります。大観という言葉は風景の全体ということではありません。あなたが生きる最初から最後、そして、あなたが生きない時の最初から最後を見なければいけないということです。

<ヨハネ 7:17>正しいか正しくないかはどのように判断していますか。東京駅に行きたいと言ったらどのように行きますか。目的がしっかりしていれば、ぶれることはありません。神様がされることはすべてに意味があり、私たちを導いてくださいますが、愚かにも今しか見ることができなければ、私たちに今起きている意味がわからないのです。

<マタイ 7:13-17> みなさんは「狭い」決断をしていますか。大勢がそうであっても本当にそれが今で良いのかどうか考えなくてはなりません。今年、大きな目を持って判断して小さなことを誤らないようにしてください。人の目線や人の言葉が気になって「普通こうだからね」と判断しないようにしてください。もう、普通なんてありません。隣の人も普通の人ではありません。まして、自分も普通ではありません。イエスキリストは「神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものかわかります。」と言いました。目的が定まっていればズレません。人の心を動かすのはあなたのこれまでの実績ではなく、あなたの心の姿なのです。その心が美しければ何年後に実を結び見極めることができます。そしてあなたが自らの生き方を終えようとする時に実が残るのです。いつも実が残るわけではなく、いつもたくさん実らせるのが良いわけでもありません。あなたの生き様が、次の土地に継承されるかが大事です。しかし実らず時期でないのに花を咲かせないといけなくと思わないでください。花が咲いていないので駄目だとも思わないで下さい。花を咲く時期にこそ実を实らせなければなりません。しかし本当の実を实らせるために小さな実を实らせる必要があります。それがあなたの目線です。目の前にある問題を見た時に、そこで感謝すること。そしてそれが隣の人に清い心として届くことが大切です。するとそれが世の中の人と違うことが分かって初めて、地の塩世の光と変えられて行くわけです。「狭い門」から入って下さい。

わたしは必ず自分の父の家にいる ルカ 2:46-49

普通だったら我が子が迷子になっていたら当然心配をします。しかし、幼いイエスキリストは「あなたはなぜ私を普通の子として見るのですか」と語りかけます。私たちにも「正しい総合判断」が必要です。「目的を見出す」ことが必要です。そして最後に「多くの犠牲に生かされている」ことを知って下さい。あなたは死に行く人の間に立って生きています。そして、生きているということには責任があります。目の前で命が失われる人がいるのです。皆さんは今豊かです。生かされているのです。生かされている人がなぜ生きているかを、あの山の頂に立って見ない限り、あなたの人生はあの石にすぎません。その石は何の意味も果たしません。しかし、その石の役割が分かれば、その周りに咲く花や、その後ろにある山に、意味をもたらします。「ペテル」(私の名を置いた石)と聖書で言われています。あなたにとってペテル・土台は何ですか。その土台の上に立って是非、目の前のことで右往左往したり、人から言われたことで感情的にならず、なぜ今そのようなことが起こっているのかを大観を持って感じて下さい。すると大局を間違わずに正しい決断ができます。

平和の祈り

「主よ、わたしをあなたの平和の道具として下さい。憎しみのある所に、愛を置かせてください。侮辱のある所に、許しを置かせてください。分裂のある所に、和合を置かせてください。誤りのある所に、真実を置かせてください。疑いのある所に、信頼を置かせてください。絶望のある所に、喜びを置かせてください。闇のある所に、あなたの光をおかせてください。悲しみのある所に、喜びを置かせてください。主よ慰められるよりも慰め、理解されるより理解し、愛されるよりも愛することと求めさせてください。なぜならば、与えることで人は受け取り、忘れられることで人は見出し、許すことで人は許され、死ぬことで人は永遠の命に復活するからです。」是非、今年一年皆さんの歩みがこのようなものとなることを切に祈ります。

(要約者:澤口建樹)

(2021年1月1日)